令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【宮原中学校】

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	【知識・技能】 ・既習事項（特に関数や基本文法）を場面に応じて適切に活用できる力。 ・デジタルツールを自ら活用し、自分の弱点を把握・補強する自己管理能力。 【思考・判断・表現】 ・複数の資料や文章から必要な情報を整理・解釈し、根拠を明確にして自分の考えを論理的に記述する力。 ・対話を通じて他者の視点を取り入れ、自分の考えを再構築・更新する力。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	【ICTを活用した「思考の可視化」と「相互参照」の促進】 ○AIドリルやクラウド環境を活用した個別最適な学びの徹底 ・調査で課題が見られた数学（関数）・英語（読解・語彙）を中心に、個々の正答状況に応じた学び直しを促し、基礎の定着を図る。 ・スプレッドシート等の共有機能を活用し、記述問題の解答をクラス全体で共有。他者の根拠の示し方や表現を参考に、自分の記述をブラッシュアップする場面を全教科で設定する。【各単元で1回以上】 ○カリマネデザインマップを活用した教科等を横断した学習活動の充実 ・総合的な学習の時間を中核におき、各教科等の学習活動の充実を図る。【カリマネデザインマップを各学期1回以上研修等で活用】

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	【全体・各教科の成果】 ・全教科で全国平均を大幅に上回る高い成果を達成した。 【無解答率の分析】 ・平均無解答率は全教科において全国および市の平均を下回る（◇評価）良好な結果となった。 【課題】 ・国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」および英語のIRTスコアにおいて、市平均をわずかに下回った点が課題である。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・数学の「図形」「数と式」や国語の「情報の扱い方」を中心に基礎的・基本的事項が定着しており、情報を読み取って思考・表現する力が身に付いている。 ・全教科で無解答率が全国・市平均より大幅に低いことから、難易度の高い問題や記述式問題に対しても途中で諦めず、最後まで粘り強く解答を作り上げる学習態度が定着している。 ・生徒質問紙において、数学・GSが好き・どちらかといえば好きと答えた割合が高く、全国と比較して学習に対する意欲や関心が高い傾向にある。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	・AIドリル（ドリルパーク・スタディサプリ等）等を活用した個別最適な学びを展開し、基礎・基本の定着と反復学習を計画的に実施した。 ・ICT機器（クラウド等）を活用し、生徒一人ひとりの思考時間を確保するとともに、意見や根拠を互いに共有・参照し合う「思考の可視化」と対話的活動を全教科で推進した。 ・これらの取組により、全国学力・学習状況調査において全教科で無解答率が全国・市を大幅に下回るとともに、正答率・スコアで全国平均を大きく上回る成果に結びついた。
	A	
⇓		
学力向上策の見直し	・ICTを活用した「個別最適な学び」と「対話的・協働的な学び」の推進が確実な成果を上げているため、現行の学力向上策を継続・深化させる。 ・無解答率の低さに表れている生徒の粘り強い思考力・記述力を一層伸ばすため、他者参照を通した学びの振り返り活動の強化。 ・国語の「言葉の特徴や使い方」の定着や英語の実践的活用力の向上に向け、言語活動や個別フォローの機会を継続的に設定する。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）